

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	692700016
法人名	社会福祉法人 いいで福祉会
事業所名	グループホームひめさゆり荘 2号館
訪問調査日	平成 19 年 11 月 14 日
評価確定日	平成 20 年 1 月 8 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかかぬ場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月26日

【評価実施概要】

事業所番号	692700016		
法人名	社会福祉法人 いいで福祉会		
事業所名	グループホームひめさゆり荘 2号館		
所在地 (電話番号)	山形県西置賜郡飯豊町大字樫3642番地 (電話) 0238-86-2286		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成19年11月14日	評価確定日	平成20年1月8日

【情報提供票より】(平成19年9月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 人, 常勤換算	6.5 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	新築/改築
建物構造	鉄骨造り 平屋建て 階建ての 階 ~ 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(9月20日現在)

利用者人数	9 名	男性 4 名	女性 5 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 82.7 歳	最低 75 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	飯豊町国民健康保険診療所
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町の診療所を改装して今年4月に開設したホームは、廊下や共用空間も広く、車イスを利用される方にも十分対応可能な構造となっており、また、職員の対応からは穏やかで誠実な姿勢もうかがえます。開設2年目に向けた課題と取り組みについて、職員一人ひとりが主体的に整理・検討を進めるプロセスを通して、運営体制の充実とサービスの質の向上がさらに図られていくことが期待できるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	(初回評価にて非該当)
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	初めての評価であり、スタッフ全員で取り組まれている。また、評価を今後の改善に活かしたいという意欲が示されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はまだ立ち上げられていないため、運営推進会議を早期に立ち上げ、関係者、関係機関との連携を図りながら、サービスの質の向上に取り組むことが期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時に声かけして意見等を引き出すように心がけており、苦情相談窓口も設置して対応している。また、重要事項説明書で外部苦情申立機関も知らせている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事や催し等への見学や参加、散歩を通して、交流し始めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設共通の理念の他、2号館独自に「笑顔で接する」ことで利用者、家族、外来者との信頼関係を築くことに努め、地域にとけ込むホームを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月1回のスタッフ会議で、自己反省と理念の確認をしながら、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事や催し等への見学や参加、散歩を通して、交流し始めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての評価であり、スタッフ全員で取り組まれている。また、評価を今後の改善に活かしたいという意欲が示されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はまだ立ち上げられていない。	○	運営推進会議を早期に立ち上げ、関係者、関係機関との連携を図りながら、サービスの質の向上に取り組むことが期待される。

山形県 グループホームひめさゆり荘2号館

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設時に、町役場から数回の訪問があった。また、行政機関や他施設も隣接していることから、近隣施設で連絡協議会を設置し、町の総合防災に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態は、面会時や毎月の手紙で写真等を添えて報告している。また、必要に応じて電話での連絡も行っている。金銭は持たないことを基本としているが、希望があれば家族の協力を得ながら利用者が持つこともできる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に声かけて意見等を引き出すように心がけており、苦情相談窓口も設置して対応している。また、重要事項説明書で外部苦情申立機関も知らせている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設間もないため職員の配置異動はないが、事前の説明や十分な引き継ぎを行うことでの配慮を考えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修への参加や外部の専門研修参加を行っており、参加できなかった職員には、資料の配布、報告を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はまだ行われていない。	○	同業者で組織される機関や団体の会議への参加や交流を図りながら、サービスの質の向上に取り組むことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や畑作業を一緒にしながら、昔の話しや知恵等をお聞きしている。また、畑で収穫した野菜を食卓に出して楽しんでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の話しの中で、思いや意向の把握に努めている。また、自分から訴えのない方は、表情や仕草等から察知したり、家族に連絡しながら本人本位に対応している。開設時、外出傾向の多い方に、家族との面会や外出の依頼をすることで安定した事例がある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族等の意見・要望を聞きながら、職員会議を行い、介護計画を策定している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行うとともに、変化が生じた場合は、現状に即した見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	病状により、かかりつけ医のいる方や通院の負担や緊 急時を考慮し、本人、家族の了解を得て、かかりつけ医 を診療所に変更した方もおり、家族、かかりつけ医と連 携しながら支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	重度化や終末期の対応についての、具体的な取り組 みはまだ進められてはいないが、現在1名の方が入院 中であり、家族、担当医と話し合いを行いながら支援が 行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	入室の声かけ、排泄や入浴の際の気配り、子供扱いを しないなど、職員各自が注意している。記録は、責任者 が管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	特に日課は決めず、その人の希望やペースを大切にし ている。天気の良い日は、気分転換を図るためできる だけ外出するよう心がけている。		

山形県 グループホームひめさゆり荘2号館

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けを一緒に行ったり、買い物をしながら献立に取り入れたりしている。弁当持参で花見も実施している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	勤務体制上、午後からの入浴となるが、希望に添うよう調整している。また、必要があればその都度入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者に応じて、モップがけ、野菜の下ごしらえ、洗い物、洗濯物たたみなど、無理なく役割が準備されており、将棋を楽しむ方もいる。気分転換にドライブや外出も取り入れているが、母体施設である特別養護老人ホームの車を借用しているため、車で出かける機会は制約されてしまう状況も見られる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩を心がけている。また、買い物やドライブなどの外出も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	外出傾向のある方は見守りで対応しているが、緊急時や気配り・見守りで対応できない時には、一時的に施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	町と地区で公共施設防災対策協議会を設置して年2回の避難訓練を実施しているが、夜間もしくは夜間を想定した訓練はまだ実施されていない。	○	利用者がより安全に安心して生活ができるよう、夜間もしくは夜間を想定した避難訓練の実施も期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立内容について、母体施設の栄養士によるチェックを受けており、一人ひとりの状態に応じて、お粥やキザミ食などが提供されている。また、水分が不足しがちな方には、水分補給の回数を増やす働きかけも行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	長いすやソファなどが配置され、季節の装飾も施されているが、日々そこで暮らす場合の共用空間としては殺風景な感じを受ける。また、トイレのドア(横引き戸)が重く、開閉の際に危険であるという理由から、トイレの入り口に暖簾を下げてドアを開放したままにしているため、トイレ使用中の姿が垣間見えたり、臭気が気にかかる状況も見受けられる。	○	複数の利用者が多くの時間を過ごすことになる共用空間が、個々の利用者にとって更に居心地よく、より安心できる場所となるための工夫、また、トイレ使用中の姿が垣間見えることや臭気を気にせずにするための工夫が期待される。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に馴染みの品や本人の使い慣れたものを持ち込んで使用できることを伝えているが、持参される方が少なく、殺風景な居室となっている。	○	使い慣れた馴染みのものが、利用者の身近にあることがもたらす意味や効果について再確認しながら、家族の理解や協力がより得られる働きかけを続けていくことが期待される。